

(9) 八東小学校

学 校 長 太宰 三和
校内研究代表者 上田 美緒

1. 研究主題 「見通しを持ち、自ら学ぶ授業づくり」

2. 主題設定の理由

本校は平成30年度から、「授業と家庭学習のサイクル化」を中心にした授業づくりに取り組んでいる。児童の実態から課題をみつけ、課題から具体的な手立てを考えた学習活動、その結果から次の課題把握というように繋げ、どこでどの力をどう育てていくのかをその都度確かめながら、一年間の研修を進めてきた。昨年度は、予習を生かした授業づくりを基本に、PDCAサイクルに基づき、定期的に検証し、取り組みの見直しを図ってきたことで、家庭学習での予習を習慣化することができた。予習をすることで、課題に対する見通しを持って、対話活動にも能動的に取り組め、多様な考えにつなげることができた。算数科ノートづくりを加えた八東小授業スタンダードの徹底、それに則った授業づくりの工夫、学習規律の定着に取り組み、高知県学力定着状況調査(4・5年)算数の全国平均3P以上上回る等、一定の成果が得られた。特に、全学年で統一した取り組みを継続・検証してきたことが児童の学力向上、学習環境の改善等につながった。一方で、学年に応じた聞く・話す力、自分や他者(友だち・教師・教科書等)の考えを書く力、さらには、それらを活用して対話的に学ぶことに課題が見られた。そこで、今年度は、さらなる学力向上につながる授業改善を大きな柱として、全学年で統一した取り組みや予習を生かした授業づくりを推進し、校内研究を深めていきたいと考える。

研究授業については、今年度も算数科を中心とした主体的かつ対話的に学ぶ児童の育成をめざした授業づくりの研究に取り組んでいく。令和2年度に実施した各種学力調査の結果を分析すると、データの活用、量と測定の領域に弱さが見られたり、記述式の問題でつまづきが見られたりした。また、学力の定着に依然個人差が見られる。そこで、本校がこれまで取り組んできた算数科授業改善を続けることで、学力の定着をより確かなものにしていきたい。

本校の児童は、素直で何事にも一生懸命取り組める児童が多い。しかし、問題文を読み、問われていることを読み取ったり、筋道立てて考えたりする力や自分の考えを絵、図、言葉や文章、式などを用いて自分の言葉で発表したり書いたり説明をしたりする力が弱く、言語活動の充実も必要である。予習課題に取り組む、一人学びで自分の考えがもてる児童も増えたが、とも学びで、お互いの考えを伝え合うことにはまだ弱さが見られる。

「見通しを持ち、自ら学ぶ授業づくり」を実践するために、資質・能力ベースの観点から算数科の授業改善を図り、単元の流れを効果的に活用することで児童が見通しを持ち、予習課題に取り組むことができるようにする。また、予習課題の出し方の工夫・授業改善や、学び方・学習の進め方、ノート作りなどにも力を入れて取り組んでいく。さらに、友だちと対話し学びを深める活動、ふり返りを含めて書く活動を授業に位置付けるなど、確かな学力の定着に向けた取り組みを進めていきたい。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究仮説

算数科の学習において、次のような手立てや指導の工夫を行うことにより、自分の思いや考えを表現し、学び合いながら確かな学力を身につけた児童の育成をすることができるだろう。

- ① 児童が自ら思考したくなるような発問や学習内容の工夫をする。
- ② 学習ゴールを明確にした授業スタンダードに則った授業づくり、効果的な板書の工夫をする。
- ③ 単元の流れを工夫改善し、1時間の学習の流れの見通しを持つことができるようにする。
- ④ 目的意識と必然性を持たせた児童のかかわり合う場を設定する。
- ⑤ 予習を生かした授業実践に取り組む。

(2) 研究の重点内容

◎授業研究

研究内容(算数科)

- ◎家庭学習の習慣化と充実
- ◎保小中の連携
- ◎道徳教育・人権教育の拡充
- ◎特別支援教育の推進

4. 今年度の取り組み

(1) 研究方法

〈1〉基礎的・基本的な力を育てる授業づくり

①授業研究

- ・八東小授業スタンダードに則った授業
- ・全学年による算数科研究授業
- ・低・中・高のブロックでの教材研究、指導案検討・模擬授業等の事前研や事後研
- ・講師招聘による学習会、複式授業の在り方（2，3年）
- ・授業づくり、予習を生かした発問・板書の工夫、児童主体のとも学び、見開きノート交流
小中相互の授業参観

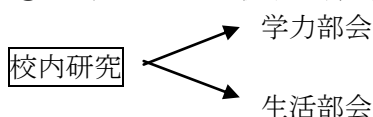
②授業評価表を計画的に活用し、授業改善を図る

- ・評価表の見直し・改善（学期に1回）

③実践交流を通して取り組みについての確認

- ・学期ごとに取り組みについての実践交流をし、チェックシートをもとにしたとも学びの検証による成果と課題の共有

④必要に応じて全校研と部会研を効果的に組織する



※全体研究日 第1・2・4水曜日（14：45～16：40）

※全員が2部会の何れかに属して、全員で研究を推進する

※2部会は学期に2回程度（必要に応じて）

〈2〉家庭学習の習慣化と充実

- ・家庭学習の手引き・自主学習ヒントカードの活用（家庭訪問でも確認する）
- ・自主学習ノートコーナーの設置、自主学習ノートの掲示、自主大賞表彰で質の向上を図る
- ・予習を生かした授業づくり情報交換
- ・家庭学習の状況調査

〈3〉道徳教育・人権教育の推進

- ・道徳参観日・人権参観日に向けて指導案交流
- ・人権集会の実施
- ・道徳教育担当による学習会
- ・児童会活動や縦割り班などを通じた仲間づくり

〈4〉特別支援教育の推進

- ・個別の指導計画を効果的に活用する
- ・支援の在り方や具体的な支援の方法、工夫についての研究
- ・校内支援委員会を定期的に持つ

(2) 研究を支えるための取り組み

〈1〉基本的な学習規律の徹底を図る

- ・ベル着、姿勢、話し手を意識した聞き方
- ・正しい学びの姿勢、話し方・聴き方のフローチャートの活用

〈2〉朝会やチャレンジタイムの充実を図る

①チャレンジタイム（月・火・木・金曜 13：45～13：55）

内容 前学年の基礎となる算数プリント

- ・ぐんぐんタイム・・・1・2年＝（水）5校時 3～6年（金）＝7校時
内容 [算数・国語]
- ・加力指導・・・（月・火・木 15：50～16：10）授業の未定着部分の復習など

②発表朝会（水曜 各学級が年間に2回）

- ・学級ごとの発表とし、感想を伝える。（朗読・暗唱等）

③学習朝会（学級で表現力や読み取る力を高める取り組みを行う。）

- ・火曜日…文章力向上 木曜日…漢字の読み書き
金曜日…言葉のきまり、ひらがな・カタカナ50音

〈3〉家庭学習の習慣化と授業のサイクル化

① 家庭学習の習慣化と内容の充実

- ・本読みカードに学習時間を記入
- ・「家庭学習の手引き」の見直しと活用

② 家庭学習と授業のサイクル化

- ・授業に生かす予習課題（家庭学習と授業のサイクル化）
- ・予習を生かした授業実践
- ・家庭学習での図書の本利用を授業に生かす

③ 自主学習の奨励

- ・自主学習ノートの掲示、表彰 自主学習ノートコーナー

〈4〉継続した読書指導をしていく

- ・朝読書を設定（ 8：25～8：35 ） ・学校必読書の見直し
- ・読書ボランティアによる読み聞かせ（年9回） ・高学年による読み聞かせ（年3回）

〈5〉新聞の活用、全校児童による新聞づくり

〈6〉挨拶・返事・後片付けがきちんとできるように取り組みを続ける

〈7〉「げんきっこ」の取り組みを基に考察し、基本的生活習慣の定着を図る（年7回）

〈8〉体力向上についての取り組み

- ・体力テスト ・「わたしたちの体育」を活用した体育の授業の質の向上
- ・朝マラソンの実施 ・縄跳び大会 ・体力アップ朝会（年10回）
- ・全校レク（金曜 13：05～13：20） ・保健朝会（年3回）

5. 今年度の成果と課題

（成果）

今年度も、昨年度の取り組みを生かしながら全学年が算数科において1単元あたり1回以上予習を生かした授業づくりに取り組むことができた。新たな取り組みとして、学習リーダーを中心とした児童主体のとも学びの時間の設定を行い、統一した取り組みを確認し検証しながら深めることができた。研究授業の際には事前研で指導案を基にした模擬授業を行い、意見交流をし、その上で授業を行うことで、ゴールにつながるめあてや、既習を生かした予習課題の設定、板書計画、深まりのあるとも学びにつながる発問の仕方など全体検討を行い日々の実践に生かすことができた。

予習課題を出すことで、児童は見通しを持ちながら、とも学びで自信をもって自分の考えが言えるようになってきた。また、児童主体のとも学びが充実し、気付きやまとめまで自分たちで考え書く力が育ってきた。

児童の学習規律も全学年で取り組むことにより、聞く態度やベル着、正しい姿勢等が昨年度より更に改善した。

（課題）

既習を基に課題解決できるような予習課題の出し方に工夫が必要である。その改善策として、前時の既習事項を生かしやすい場面で予習課題を設定していく。また、予習課題を自力解決できない児童がいることである。児童の「ここまで分かった。」ということが言える力を養っていくことと、自力解決できるための基礎基本の定着に向けて復習も大切にしていきたい。